

○地震・火山等の観測・予測技術の研究開発、実大三次元震動破壊実験施設(E-ディフェンス)を活用した耐震技術の研究開発、豪雨災害等に対する予測力・対応力・復旧力を総合的に向上させる研究開発などの災害リスク軽減情報の創出・利活用手法の開発等を推進

○全国の地震観測網の維持・運用、火山観測網の維持・運用、ならびにE-ディフェンスの保守・運用を着実に実施

自然災害観測・予測研究 2,782百万円(2,782百万円)

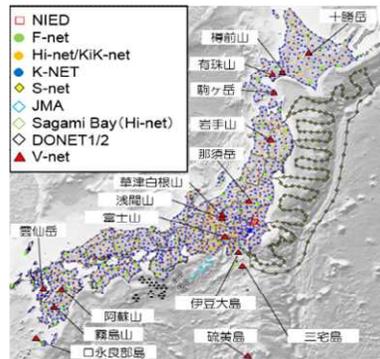
【2018年度第2次補正予算額：407百万円】

○地震・津波の観測・予測研究

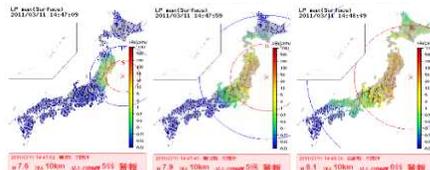
・全国の地震津波観測網を運用し、研究機関や防災機関等の研究活動・防災活動に資する観測データを提供。

・リアルタイム観測データ等を活用し、新しい即時地震動予測技術、津波の一生予測技術等を開発。

・故障、老朽化した地震観測網の更新を実施。



▲世界に類を見ない稠密な陸海統合地震津波火山観測網(MOWLAS)の運用

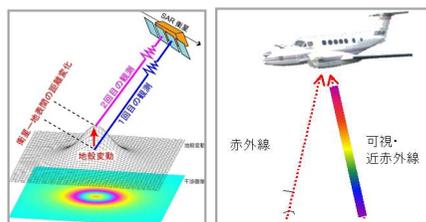


▲新しい即時地震動予測技術の開発

○火山活動の観測・予測研究

・火山観測網を着実に運用し、研究活動・防災活動に資する観測データを提供。

・リモートセンシングによる火山の地殻変動等の観測及び取得データの解析等を実施。



▲リモートセンシングによる火山観測

減災実験・解析研究 2,504百万円(1,623百万円)

※臨時・特別の措置を含む

○E-ディフェンス等を活用した社会基盤強靱化研究

・実大三次元震動破壊実験施設(E-ディフェンス)について、その安全・確実な運用のため、施設・設備・装置等の保守・点検を実施。

・地震発生時の建築物や附属設備等の機能維持のため、破壊過程の解明と効果的な被害低減対策の提案に向けた耐震技術研究を実施。

・震動実験を数値シミュレーションで再現するための研究開発を実施。

・E-ディフェンスの作動油の更新及び機器の整備・交換を実施。



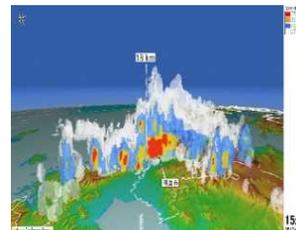
▲E-ディフェンスによる震動実験

災害リスクマネジメント研究 2,158百万円(1,757百万円)

○極端気象災害リスクの軽減研究

・気象レーダー等を着実に運用し、研究活動・防災活動に資する観測データを提供。

・豪雨・豪雪等の局地的気象災害のメカニズム解明を進めるとともに、そのリスクの軽減に資する手法の開発を実施。



▲線状降水帯の雨雲構造

○自然災害のハザード評価に関する研究

・低頻度・巨大地震にも対応した地震ハザード評価手法の開発、津波を引き起こす可能性のあるすべての地震を対象とした津波ハザード評価を実施。



▲SIP4D(基盤的防災情報流通ネットワーク)

○自然災害に関する情報の利活用研究

・社会全体の防災力を高めるためのリスクコミュニケーション手法を開発

その他 1,745百万円(1,044百万円)

※臨時・特別の措置を含む

・つくば本所の施設の老朽化対策を実施。